

経営比較分析表（令和5年度決算）

奈良県南和広域医療企業団 五條病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	3	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	10,366	第2種該当	-	13：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
45	45	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	90
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
44	34	78

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

業務分化・連携強化 （従来の可搬・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	-
-	年度	-

I 地域において担っている役割

療養への対応、在宅への連携を見据えた高齢者医療、身近な外来機能

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

南和保健医療圏内の公立3病院の病院機能を再編し、医療圏内における地域医療センター（回復期・慢性期）として平成29年度から一般病棟のみで運用を開始し、平成30年度からは療養病棟の運用も開始した。

新型コロナウイルス感染症の5類移行により一時的に低下していた病床利用率もコロナ禍以前を上回る77.5%の状態にまで回復し、患者1人1日当たり収益も対前年同等のレベルを維持できていることから、経常収支比率は100%超を維持している。一方、医療収支比率等は新型コロナウイルス関連補助金の減収や人事委員会勧告の対応等に伴い対前年3%の低下となった。引き続き、今後も経常収支比率100%超の維持に向けて収益向上、費用の適正化等に向けた取り組みを進めていく。

2. 老朽化の状況について

医療圏内の公立3病院の再編を経て、旧県立五條病院の建物を平成29年度にリニューアルオープンしている。

令和5年度は電子カルテシステム等医療情報システム及び端末等関連周辺機器の更新と、それに合わせて旧システム関連機器等の除却を行ったため、器械備品等減価償却率が低下した。

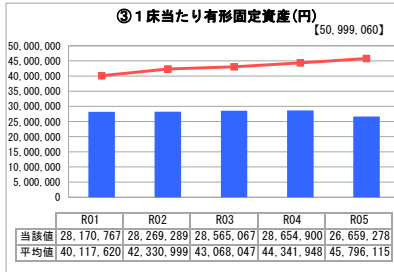
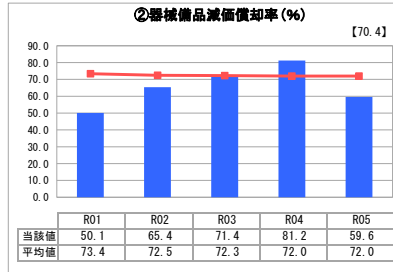
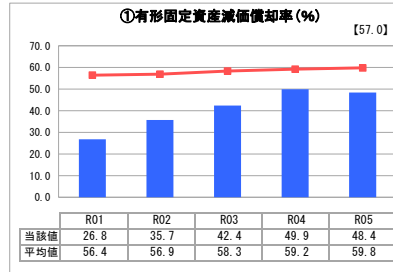
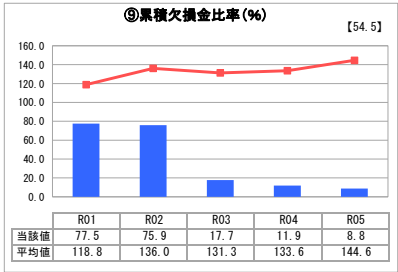
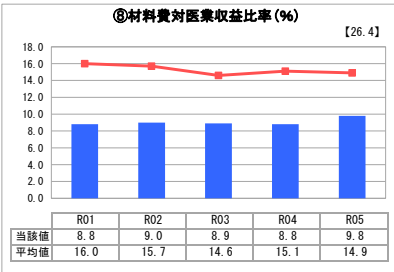
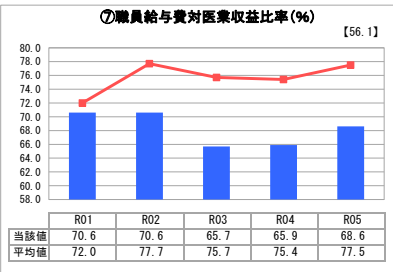
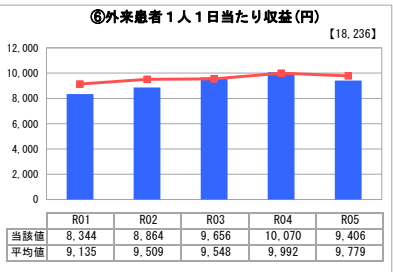
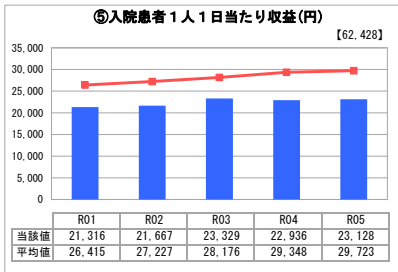
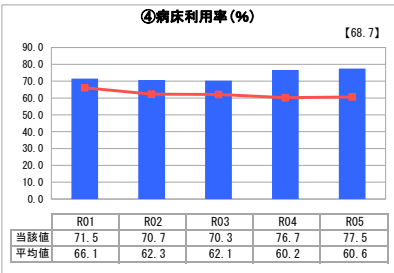
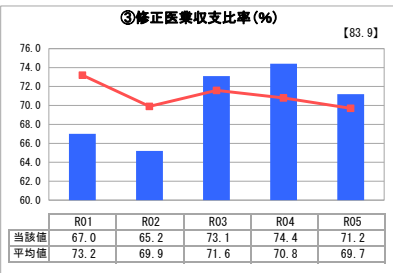
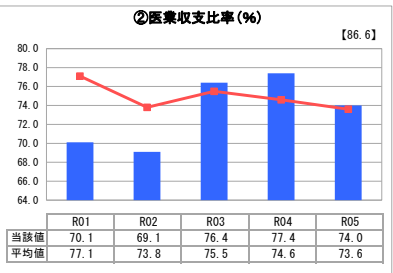
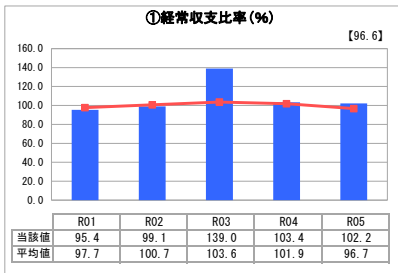
今後も更新が必要な器械備品の増加が予測されるため、初期投資が賄えるよう収入の確保、費用の適正化に向けたコスト管理などの取り組みを進めていく。

全体総括

南和保健医療圏内の公立3病院を1つの救急病院（急性期）と2つの地域医療センター（回復期・慢性期）に再編した。

今後は、経常収支比率及び医療収支比率の向上に向け、公立病院改革プラン（南和広域医療企業団中期計画）に基づき、南奈良総合医療センターや地域の医療機関との連携強化等、入院・外来患者の増加等に積極的に取り組んでいく。

1. 経営の健全性・効率性



※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。